

「感謝を忘れずに」

別府溝部学園高等学校看護専攻科1年 角 茉莉

私には家族とのふれあいから学んだことがあります。それは感謝の気持ちを忘れないことです。でも、この気持ちを心から思えるようになったのは最近からかもしれません。

私は極小未熟児で生まれました。生まれてからは危険な時期もあり育つか分からない、歩くことも言うこともできないかもしれないと担当医師から言われていたそうです。でも、両親は諦めることをせず色々な病院や整体、とにかく私にプラスになるかもしれないことは全部してくれたそうです。そのおかげで足は不自由のままですが、言葉も話すことができるし普通に学校に行って看護の勉強を学ぶこともできています。

この今の生活は、私にとって当たり前の生活ではなく本当に周りのみんなの協力や支えがあるからこそこうしていられるのだと思います。こんなふうに今は思えますが、前は何に対してもマイナスで、ありがとうと言うことを忘れていたような気がします。

小さい時から足が不自由で周りの人が優しく、学校の先生もどこか私を特別扱いすることがあり、いじめにあったこともありました。学校に行きたくない、なんで私がとよく泣いていました。でも、そんな時、母から、「優しくされたりするのを特別とってるの。足が悪いからって甘えていいわけじゃないよ。感謝の気持ちがないから周りの人に意地悪言われるんよ。」と怒られたことがあります。その時、母に対してなんでそんなことを言うのと怒りをおぼえましたが、よく考えると本当にそうなのかもしれないと思いました。私はその時、感謝の気持ちがなかったんだと思います。ありがとうとごめんなさいが言えてなかったのかもしれないと考えさせられました。それからは必ずその言葉を言うようにしています。母がよく言います。「感謝の気持ちを言葉に出して言われたら悪い気はしないよ。」と。本当にそうだなと感じます。

看護の実習に行った時にこの感謝の気持ちを忘れないことを身にしみて感じるがあります。実習中は上手くできないことに苛立ちを感じたり落ち込むことがよくあります。緊張や自分の勉強不足など本当に挫折しそうになります。でも、そんな落ち込んでいる中でも悲しい顔はできないし、笑顔で接していると、いつも話してくれない患者さんが話しかけてくれたり、「上手くなってきたね。頑張ってるね。」と受け持ちの患者さんに言われたりしたことがありました。その時、本当に心から嬉しくて泣きそうになってしまいました。「頑張っていれば必ず自分のためになるんだ。周りの人を笑顔にできるのだ。」と思いました。私は受け持ちの患者さんに、「頑張っただけで絶対に夢を叶えます。」と実習最終日に話しました。

今、私が夢を持って勉強している看護師への道は、すごく大変だと思いますが頑張っていこうと思います。私は、これからも感謝の気持ちを忘れないことを心に刻み生きていきたいと思っています。